

【A年】

聖霊降臨後第二十一主日

特定二十五

全能の神よ、み子イエス・キリストは、小さい者のために行うことはわたしのために行うことになる、と教えられました。すべての人の僕となり、わたしたちのために命を捨て、死なれたみ子のように、わたしたちにも隣り人の僕となる心をお与えください。父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書は出エジプト記第二十二章二十節か

151

20 寄留者を虐待したり、圧迫したりしてはならない。あなたたちはエジプトの国で寄留者であったからである。

21 寡婦や孤児はすべて苦しめてはならない。22 もし、あなたが彼を苦しめ、彼がわたしに向かって叫ぶ場合は、わたしは必ずその叫びを聞く。23 そして、わたしの怒りは燃え上がり、あなたたちを剣で殺す。あなたたちの妻は寡婦となり、子供らは、孤児となる。

24 もし、あなたがわたしの民、あなたと共にいる貧しい者に金を貸す場合は、彼に対して高利貸しのようにしてはならない。彼から利子を取ってはならない。25 もし、隣人の上着を質にとる場合には、日没までに返さねばならない。26 なぜなら、それは彼の唯一の衣服、肌を覆う着物だからである。彼は何にくるまって寝ることができるだろうか。もし、彼がわたしに向かって叫ぶならば、わたしは聞く。わたしは憐れみ深いからである。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

第一編

- 1 幸せな人、それは神に逆らう者の謀りごとに歩まず＝
罪人の道に立たず、あざける者とともに座らない人
- 2 主のおきてを喜び＝ そのおきてを昼も夜も思う人
- 3 流れのほとりに植えられた木のように＝ 時が来れば実を
結び
- 4 葉もしおれることがなく＝ この人は何をしてもすべては
実る
- 5 神に逆らう者はそうではなく＝ 風に飛ばされるもみ殻
- 6 神に逆らう者は審きに耐えられず＝ 罪人は神に従う者
の集いに耐えられない
- 7 神に従う者の道は神に守られ＝ 神に逆らう者の道は滅
びに至る

使徒書

朗読者 「使徒書はテサロニケの信徒への手紙Ⅰ第二章一節

から」

1 兄弟たち、あなたがた自身を知っているように、わたし
たちがそちらへ行ったことは無駄ではありませんでした。2
無駄ではなかったどころか、知つてのとおり、わたしたちは
以前フィリピで苦しめられ、辱められたけれども、わたし
たちの神に勇気づけられ、激しい苦闘の中であなたがたに神
の福音を語つたのでした。3 わたしたちの宣教は、迷いや不

純な動機に基づくものでも、また、ごまかしによるもの
もありません。4 わたしたちは神に認められ、福音をゆだね
られているからこそ、このように語つています。人に喜ば
れるためではなく、わたしたちの心を吟味される神に喜ん
でいただくためです。5 あなたがたが知っているとおり、わ
たしたちは、相手にへつらつたり、口実を設けてかすめ取つ
たりはしませんでした。そのことについては、神が証しして
くださいます。6 また、あなたがたからもほかの人たちから
も、人間の誉れを求めませんでした。7 わたしたちは、キリ
ストの使徒として權威を主張することができたのです。し
かし、あなたがたの間で幼子のようにになりました。ちよう
ど母親がその子供を大事に育てるように、8 わたしたちはあ
なたがたをいとおしく思つていたので、神の福音を伝えるば
かりでなく、自分の命さえ喜んで与えたいと願つたほどで
す。あなたがたはわたしたちにとって愛する者となつたから
です。

朗読者 「使徒書を終わります。」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖マタイによる福音書第二十二章三十四節以下に記

された主イエス・キリストの福音。主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

34 フアリサイ派の人々は、イエスがサドカイ派の人々を言
い込められたと聞いて、一緒に集まった。35 そのうちの一人、
律法の専門家が、イエスを試そうとして尋ねた。36 「先生、律法
の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」37 イエスは言わ
れた。「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あ
なたの神である主を愛しなさい。」38 これが最も重要な第一
の掟である。39 第二も、これと同じように重要である。「隣人
を自分のように愛しなさい。」40 律法全体と預言者は、この二
つの掟に基づいている。」

41 フアリサイ派の人々が集まっていたとき、イエスはお尋
ねになった。42 「あなたたちはメシアのことをどう思うか。

だれの子だろうか。」彼らが、「ダビデの子です」と言うと、
43 イエスは言われた。「では、どうしてダビデは、霊を受け
て、メシアを主と呼んでいるのだろうか。」

44 『主は、わたしの主にお告げになった。』

「わたしの右の座に着きなさい、

わたしがあなたの敵を

あなたの足もとに屈服させるときまで」と。』

45 このようにダビデがメシアを主と呼んでいるのであれば、
どうしてメシアがダビデの子なのか。」46 これにはだれ一人、
ひと言も言い返すことができず、その日からは、もはやあえ
て質問する者はなかった。

司祭 「主に感謝」

会衆 「主に感謝します」